

7月27日(金)

天塩川カヌー118kmの最終日。あと4kmで終点の河口だが、左岸にきれいな砂浜を見つけて上陸し、昨夜の宿である「サロベツ会館」のお弁当を開いた。空腹だったので、あっという間にお腹におさまった。とてもおいしかった。これで500円とはありがたい。すっかり満足して、ふと箸袋を見たら「天塩川」という歌の歌詞が印刷してある。作詞者・作曲者・歌手はない。「川」の流行歌なら、石狩川悲歌(三橋美智也)や神田川(かぐや姫)などの名曲があるが、「天塩川」というのも名曲なのかいな。

7月28日(土)

バスでJR幌延駅へ。駅前の「サロベツ会館」に行って、箸袋の歌について尋ねたら、時雨音羽の作詞で、都はるみが歌ったのだという。詳しく調べようと駅の観光案内所へ。若い女性がひとり居た。地域おこし協力隊の一員として働いているという彼女の第一声は、「えっ、そんな歌があるんですか」。結婚して札幌からこの地に来たばかりだということから、まあ、知らなくても無理はないか…。彼女はスマホで検索して、なんと「天塩川」は水森かおりの歌だと言った。水森によるカバー曲だと思いスマホで再生してもらおうと、これが箸袋の歌詞とはまったく違う。

帰宅して、調査続行。

こういう時、パソコンは便利ですね。ありました！商品番号MSCL-13412。作詞：時雨音羽、作曲：八洲秀章、歌手：都はるみ。1977年発売。「天塩川」はB面(A面は「サロベツ慕情」)。実は、サロベツ会館のオーナーが裏話を漏らしてくれていた。ある人が都はるみに「天塩川」の歌のことを聞いたら、「あら！私そんなの歌ったかしら」と答えたというのだ。B面だったからですかね。シングル144枚(曲数なら数百タイトル?)のはるみですから、忘れていても仕方ないかなあ～。

ついでながら、1991年(ソ連崩壊の年ですね)に「三里塚空港反対同盟熱田派結成25周年記念」として「都はるみ三里塚星空コンサート」を反対派農家の敷地で開いたそう。はるみはこんな社会問題に関心があったのか！うーん、聞いてみたかったな。

はるみは、元夫にも内縁の夫にも先立たれて、現在70歳。最近、あまり表に出ていないようだが、元気なのであろうか。

YouTubeで検索しても、はるみの「天塩川」はヒットしない(水森のはヒットする)。市内でCDを探しまわって、やっとTOWER RECORDSで予約できた。MEG-CDで取り寄せに2週間かかると。ああ待ち遠しいなあ。

調査は、時雨音羽に飛ぶ。この利尻島生まれの作詞家は、有名な「出船の港」“ドンとドンとドンと波のり越して…”で世に出たのですね。そして「君恋し」“宵闇せまれば 悩みは生涯なし…”。山岳部現役時代に吹雪のテントで沈殿しながらよく歌ったっけ。「君恋し」は、さすがにYouTubeでいくつもヒットする。懐かしくてそれらを次々に再生して聞き惚れた。定番のフランク永井は、豊洲の資材置場で夜警のバイトをやりながら5球スーパーで聞いたなあ。フランク永井もいいが、二村定一の古い(1928年の)アナログ原音の再生はノイズ混じりながらも味がある。「野沢温泉小唄」は、やはり現役時代に先輩から教わり、部室で茶碗酒を飲みながらみんなで歌ったたっけなあ。“千曲わたればナ 野沢の出湯ヨ わたり鳥さへ … ユラユラユラは湯の煙 チャラチャラチャラは水の音 サハチャラリナ”。題名はたしか「野沢小唄」と教わったはずだ。